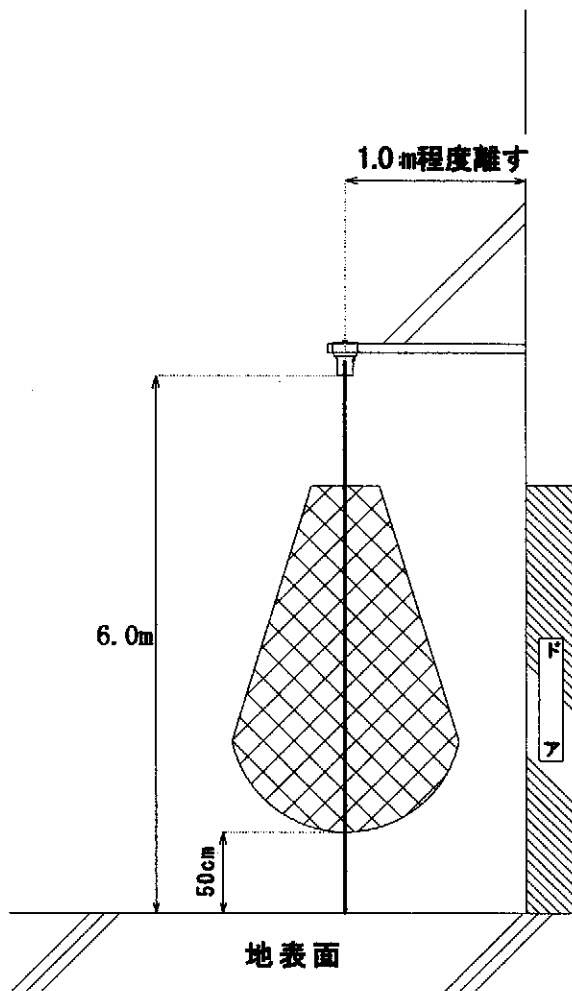


## 取付け注意事項

(※ OM5-10C/10Cq)

- 検出距離を高さの6mちょうどに設定しますと、応差(ヒステリシス)が30cm(設定距離の約5%)程あり、検出しつ放しとなります。これを避けるため余裕を見て地表面から約50cmの高さに検出距離を設定する必要があります。距離の設定は壁などに向けてZONE SETTING VRで調整して下さい(出荷時は に合わせてあります)。検出時にはOUT1(P.L.1)LED(橙色)が点灯します。
- 取付ける角度は地表面に向かって鉛直方向に設置して下さい。検出距離の確認には平板をお使いください。
- この時のセンサー検出幅は半径約75cmありますのでドアに音波が接触しないように余裕を見て1.0m位離して設置してください。
- 屋外に設置の際は雨、風、雪、直射日光等、機器を劣化させる要因になる要素に十分留意の上、対策をして設置して下さい。(例、ひさしやカバー等。)
- 保護カバーとコードの接点は水の進入を防ぐため融着テープ等でシールしてください。
- センサー発振部には圧力や衝撃が加わらないようにご注意ください。
- 有機溶剤やオイルミスト等の影響を直接受ける場所での使用は避けてください。
- 対象物とセンサーヘッドとの間に熱風(冷風)が通りますと測定誤差が大きくなる事がありますのでご注意ください。
- 高圧線、動力線と接続コードはノイズによる誤動作を避けるため、必ず別配線として下さい。
- 他に40KHZの超音波発生源がありますと誤動作を起こす恐れがあります。例えば空圧機器等の「ブシュー」や「シュー」音にはこの周波数が含まれている事が多いのでご注意ください。又、これ以外にも工場などではこの類の外来ノイズが発生しやすいので、場合によっては外来ノイズ源をカットもしくは離す必要があります。



## 保守点検事項

- 基本的にメンテナンスフリーですが、年に一度の定期点検をお勧めします。
  - 点検項目としては、
    - ・センサー発振部に耳を近づけ「パッパッ」と規則正しく発振しているかどうか。
    - ・センサー前部に大きいゴミや蜘蛛の巣など検知障害物等があれば除去。
    - ・外見的に著しく劣化損傷が起きていないかどうか(先端ホーン周辺、内部のキズ、ゴミ等)。
    - ・実際にセンサー検出範囲内に平板などを掲げて検出距離、検出範囲に問題が無いか確認
  - 理論上(MTBF)、10年以上の耐用年数がありますが、使用環境によっては以下の症状が発生することがあります。
    - ・センサーからの発振音が不規則、弱々しい音、あるいは発振音が聞こえない。(下方より事故的な噴水の侵入)
    - ・何も無いのに検出する(チャタリング、外来ノイズ)  
※外来ノイズは同じ40KHZの成分を含んだ音源が周辺にある場合
    - ・センサーが検出しなくなる。(例えばネズミがコードをかじる)
- このような症状が発生しましたら弊社までお問い合わせ下さい。基本的に故障の対策は修理するか新品との交換になります。